

2024年度 前期 1 次午後入学試験

国語

2024年1月13日（土）実施

【注意事項】

1. 解答は必ず解答用紙の指定されたところに記入すること。
2. 問題は1 ページから12 ページまでです。
3. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないこと。合図があったら、必ず問題用紙には受験番号を、解答用紙には受験番号と名前を忘れずに記入すること。
4. 問題用紙を破いたり切り取ったりしないこと。
5. いったん書いた解答を書き直す場合は、前のものをしっかり消すこと。
6. ことわりのない場合、句読点、記号などはすべて一字と数えます。
7. 問題作成上、文章の表現をかえたり、省略したりしているところがあります。

受験番号



履正社中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①雪は、いろいろのものを、私たちの目からかくしたかわりに、山の小鳥たちを、里によびよせてくれます。庭の生け垣がきにウグイスの子どもがやってきました。親鳥になると、あんなよい声で鳴くウグイスも、子どもころは、デッ、デッと歌にもなんにもなっていない、ほんとに笑いだしたくなるようなぶきような鳴き声をたてるのです。黒とオリブ色の着物で、つばさに、白いぬい紋もんをつけた、おしゃれなヒタキもやってきました。また、ミソサザイも、冬の小鳥です。このちびすけの、②あわてんぼうといったら、まったく天下第一です。（ア）

※のきばにかけてある、ほし菜なのあたりを、ぴよんぴよんとんでいると思っているうちに、何をまちがえたのか、家のなかにとびこんできて、「ああ、しまった」というように、大そうどうをして、障子や板戸にぶつかって逃げだすのです。

私の家の庭にも、たくさん的小鳥のお客さまがありました。（イ）

そのなかでも、毎日きまってやってくる、顔なじみは、シジュウカラでした。

私の父は、この小鳥のために、カボチャの種やアサの実を、たくさんによういしておくのでした。雪がふって、山の小鳥たちの餌えさがなくなると、おぼんにもったそれらの種を、庭のまん中の大きな庭石の上にだしておくのでした。

父は、そんなことを、A二十年間も、毎年つづけていました。

やがて、小鳥のごちそうをおぼんにもり、ざぶざぶ雪をふんで、庭石のところまではこぶのは、私の姉の毎朝の

しごとになり、③姉がおよめさんに行つてからは、私が小鳥のコックさんになって、そのあとをひきうけたのでした。

シジュウカラは、二、三十羽^わ、多いときには五、六十羽も、むれてやってきます。

五、六十羽もシジュウカラがやってくると、庭中がシジュウカラでいっぱいになったように見えます。

チューリン、チューリン。

口々に、すんだ声で鳴きたてて、たちまち庭は、④小鳥の音楽堂になってしまうのです。「どうだい、家の庭は、まるで、山おくの自然のままの、林みたいなようすになってしまったじゃないか。」

こたつにあたりながら、父は大よろこびで、こんなことをいうのでした。

小鳥たちのなかにも、ほかのものにさきんじて、⑤お手本をしめすものがあるような気がします。

庭石の上の餌を食べにくるのにも、みんな、一度におりてくるというのではありませんでした。

群のなかの一羽が、だいたんに、すーと庭石のおぼんに、まっすぐにとびおりてきて、「われわれのすぐ近くに、人間がいてもだいじょうぶだぞ。わしは、まだこの庭では、一度もひどい目にあったことがないのだ。安心しておりておいでよ。」とでもいうように、餌をつついてみせると、いままで、餌のほうをのぞいては、ためらっていたものたちも、あちらの枝、こちらの枝から、パラパラ、パラパラと、ここちよい羽音をさして、庭石の上に、まいおりてくるのでした。(ヘウ)

雪のために餌をかくされてしまったシジュウカラは、たいそうおなかがすいていっていると見えて、ごちそうをたべることに、むちゆうです。

B

「これは、おれ一人でたべるんだぞ」というように、いじわるするようなのは、一羽ありませんでした。あいての背中にとびのつてたべるもの。友だちのうしろから、脚あしのあいだに頭をつっこんで、ひろつてたべるもの。松の葉の上にたまっていた雪を、パラパラとおとしながら、餌をあさっている友だちのまんなかにとびおりてくるもの。ごちそうをたべつくしてしまうと、さあつと木の上に、まいあがつて、体操のじょうずなシジュウカラたちは、⑥木の枝の鉄棒で、くるんと、しりあがりをしたり、ぶらんこをしたりして、ひとしきり、たのしく遊びます。

そのうちの一羽が、何か思いたしたようにひゅーと庭のかなたにとびだすと、一群のシジュウカラたちは、きたときと同じように、かるい羽音をたてて、どこともしれず、一度にとびさってしまうのです。

一羽ものこらず。(エ)

(棕鳩十『父とシジュウカラ』より)

※のきば……軒のきの先端せんたん。家の屋根のうち、壁かべよりも外側に突き出ている部分。

問一 ———線①「雪は、いろいろのゝ里によびよせてくれます」とありますが、その表現方法としてもつとも適

当なものを次のアゝエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 倒置法 とうち イ 擬人法 ぎじん ウ 体言止め エ 反復法

問二 ———線②「あわてんぼう」について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「あわてんぼう」の小鳥の名前を文章中からぬき出して答えなさい。

(2) 「あわてんぼう」とはどのような行動をたえたものですか。「ゝ行動」に続くように文章中からぬき出して初めて終わりの五字をそれぞれ答えなさい。

問三 ———線③「姉がおよめさんに行ってから、ゝそのあとをひきうけたのでした」とありますが、私が姉か

ら引き継いだ仕事の内容を「ゝ仕事」に続くように文章中の言葉を用いて三十字ゝ四十字で答えなさい。

問四 ———線④「小鳥の音楽堂」とありますが、何のどのような様子をたえていますか。「ゝの様子」に続く

ように十五字ゝ二十字で答えなさい。

問五 ———線⑤「お手本をしめす」とありますが、実際にはどのような行動のことですか。もっとも適当なもの

を次のアゝエの中から選び、記号で答えなさい。

ア まわりの安全を確かめる イ 雪の中に餌をかくす

ウ 枝の上から餌をのぞく エ おぼんの上で餌をつつく

問六 ———線⑥「木の枝の鉄棒で、くると、くひとしきり、たのしく遊びます」とありますが、この時の小鳥

の行動は、何にたとえられていますか。文章中から二字でぬき出して答えなさい。

問七 空らん A・B にもっとも当てはまる言葉を次のア、イ、エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア けれども イ もう ウ まだ エ そして

問八 文章中には次の一文がぬけています。この文を入れるとすると文章中の空らん（ア）（イ）（エ）のどこがもっとも適当ですか。ア、イ、エの記号で答えなさい。

あとは、しんかんとした雪の庭です。

二 次の会話はR中学校一年生の秋子さんと、彼女の双子ふたごの姉、春代さんと夏美さん、三姉妹のものです。その会話を讀んで、後の問いに答えなさい。

秋子さん 「お姉ちゃん、ちよつと聞いてえ。この冬休みに①百人一首を二十首覚えてくるといふ宿題が出たの。ひどくない？」

春代さん 「ああ、その宿題なら去年私たちにも出たわ。でも、私はもともと暗記物が得意だからそれほど苦勞はしなかったけどね。」

夏美さん 「うちの中学校では二月にクラス対抗カルタ大会を行うのが伝統だから、その準備つてことね。」

秋子さん 「その話は私も聞いていたけど。いきなり二十首と言われても困るわ。いったい何をどう覚えればいいんだろう？」

春代さん 「そうねえ。当然、百首全部覚えるのが理想だけど、まずは覚えやすそうな歌や、自分の気に入った歌を選んで二十首覚えればいいんじゃない？」

夏美さん 「結局、大会ではたくさん覚えてゐる者同士、そうでない者同士、というふうに実力をそろえて対戦することになるから、どの試合も接戦が多くて盛り上がったよ。」

春代さん 「私たちも去年のカルタ大会をきっかけに百人一首に興味を持ってカルタ同好会をつくったのよね。」

夏美さん 「最初は顧問の先生を探るのが大変だったけど、偶然教頭先生が②競技カルタ経験者で、お願いしに行つたら③引き受けてくれたのよね。」

秋子さん 「カルタって私の知っているカルタじゃなくて百人一首なの？」

春代さん 「あなたの言っているのはきつと④いろはカルタのことよね。」

秋子さん 「そうそう。たとえば『犬も歩けば棒に当る』って読まれたら、『㊦という頭文字と犬が棒にぶつかる絵』が描いてある札を取るやつよ。」

夏美さん 「私たちがやっているカルタは百人一首で、奈良時代から鎌倉時代の有名な百人の歌人の和歌を使っているのよ。」

春代さん 「百人一首は、歌人の絵と歌が書いてある読み札と、歌の一部だけが書かれた取り札に分かれていてそれで一セットになっているの。」

秋子さん 「えっ、絵が描かれた札を取るんじゃないの？ 初めて知ったわ。」

夏美さん 「そうよね。私も最初はそうだと思っていたけど、実は違ったのよね。」

春代さん 「和歌は短歌とも言い、最初に読まれるAを上かみの句、続く七七を下しもの句と呼ぶんだけど、歌を暗記している人は上の句が読まれた時点で下の句がわかるから、早く探し始められるのよ。」

秋子さん 「そうか。だから歌を暗記した方が有利なんだね。」

夏美さん 「私も今ではほぼすべて覚えているわよ。」

春代さん 「まあ、私たちにとってはそれが当たり前。同好会では単に読んだ札を取るのではなくて、競技カルタの方式で普段から練習しているのよ。」

秋子さん 「競技カルタ？ それって百人一首とはまた違うの？」

夏美さん 「百人一首を使うのは同じだけど、競技用にさまざまなルールが決められていて、その中で対戦するの。」

春代さん 「競技カルタは一对一で行うの。いわゆる対戦式ね。そして百枚の取り札のうち使うのは五十枚だけで、それを対戦相手と半分ずつ分け、それぞれの陣地じんちに置くの。」

夏美さん 「それぞれ自分の陣地には取り札を縦に上・中・下段と三段に並べるわ。横に並べる数の指定は特にないけれど、札を取りやすくするために真ん中付近は札を置かず、三段とも左と右に寄せて配置するのよ。」

春代さん 「自分の得意な札は、利き手側きの下段に置いて、自分が取りやすく、敵に取られにくくしたりする工夫くふうもするといいわ。」

夏美さん 「お互い自陣たがに配置したら、十五分間その配置を記憶きおくする時間があって、その後競技を開始するの。」

B

「当然、たくさん取った方が勝ちなのよね。」

夏美さん 「そうじゃないの。まず自陣から札を取れば当然自陣の札も減ります。そして敵陣の札を取った場合は自陣の札を一枚敵陣に渡すわたの。そうすると自陣の札が減るでしょ。」

春代さん 「そうやって、先に自陣の札が全部無くなった方が勝ちになるの。」

秋子さん 「へえ、競技カルタって一对一で勝負できて楽しそう。私もカルタ同好会に入ってみようかな。」

問一 ―― 線①「百人一首」とありますが、その説明としてもっとも正しいものを次のア～エの中から選び、記

号で答えなさい。

ア 百人一首とは、五十音で始まる札が二枚ずつ用意されており、読み手が札を読んだときに、その頭文字と絵の描かれた札を大勢の人で取り合うゲームである。

イ 百人一首とは、百人の歌人の詠んだ和歌で作られており、読み手が読んだ下の句を手がかりにして、取り手が歌全体の書かれた札を取り合うゲームである。

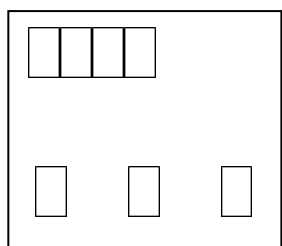
ウ 百人一首とは、絵入りの札と文字だけの札がそれぞれ百枚あり、読み手が文字全体を読み、その最初の文字の入った札を取り合うゲームである。

エ 百人一首に用いられているのは百首の短歌であり、読み手がその歌を読み、取り手はその下の句から始まる札を取り合うゲームである。

問二 ―― 線②「競技カルタ」とありますが、文章からわかる競技カルタの札の正しい並べ方を、次の例を参考

にして解答らんに書き入れなさい。ただし、解答は自分側の陣地だけでかまいません。（札は□で表すこと。）
その際、札の大きさや多少の形のいびつさは問いませんが、その配置と枚数はわかるように示すこと。）

例



↑ 自分から見た自陣

問三 ——— 線③「引き受けてくれた」とありますが、これを文意にそって正しい敬語表現になおして答えなさい。

問四 ——— 線④「いろはカルタ」について、次の(1)～(3)は実際の「いろはカルタ」の札です。ことわざの頭文字

とその内容が絵に描かれています。そのことわざをそれぞれ答えなさい。

(1)



(2)



(3)

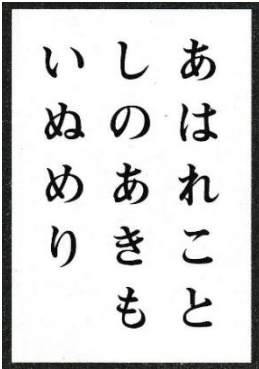


問五 空らん A にあてはまる言葉を漢数字三字で答えなさい。

問六 空らん B にあてはまる人物名を答えなさい。

問七 次にあげる(1)と(2)の札をそれぞれ何といいますか。会話文の中からぬき出して答えなさい。

(1)



(2)



問八 次の(1)と(2)の札と対になる札はどれですか。後のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)



(2)



ア

ふしのたか
ねにゆきは
ふりつつ

ウ

いまひとた
ひのあふこ
ともかな

イ

いまひとた
ひのみゆき
またなむ

エ

わかころも
てにゆきは
ふりつつ

三 次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～⑩について、空らん□に後のア～トの漢字を入れてそれぞれ二字熟語を完成させます。もっとも適当な漢字を選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 通□ | ② | □通 | ③ | 事□ | ④ | □事 | ⑤ | 容□ |
| ⑥ | □容 | ⑦ | 興□ | ⑧ | □興 | ⑨ | 宿□ | ⑩ | □宿 |

ア	意	イ	過	ウ	家	エ	活	オ	刊	カ	器	キ	許	ク	共	ケ	庫	コ	合
サ	菜	シ	材	ス	然	セ	象	ソ	登	タ	努	チ	貧	ツ	復	テ	味	ト	命

問二 次の①～⑩の――線のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれなおしなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|--------------|---|---------|--------------------------------|
| ① | ショウジヨ | たちの笑い声が聞こえる。 | ② | ギフ | 県ではアユなどの川魚が名産だ。 |
| ③ | 子どものセイ | チョウを見守る。 | ④ | 冬のキセツ | には鍋料理 <small>なべ</small> が多くなる。 |
| ⑤ | 欠点をアラタ | める。 | ⑥ | この料理は後味 | がさわやかだ。 |
| ⑦ | 円柱 | の多い建物。 | ⑧ | 古典を題材 | にした小説。 |
| ⑨ | 広大な土地 | を所有する。 | ⑩ | 命に関 | わる問題だ。 |

問題は以上で終了です。
しゅうりよう

※ 解答はワクの中に「こく」はつきりと記入し、特に漢字はかい書でていねいに書きなさい。
ワクからはみ出したり、うすくて読みにくかったりすると、採点できないことがあります。

名前

受験番号

※記入しない

一					問一					
問五		問四	問三		問二					
問六				30	(1)					
問七 A		15			(2)					
B										
問八		の様子								
									</	

